

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 7 月 10 日

【評価実施概要】

事業所番号	4075300204		
法人名	医療法人 財団 親和会		
事業所名	グループホーム きんもくせい		
所在地	福岡県鞍手郡小竹町勝野4202-7 〒820-1103 (電話) 09496-2-8882		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年7月1日	評価確定日	平成21年8月27日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自立支援の理念のもとに医療法人が五年前に開設したホームである。開設当時から残存機能を維持する為の見守りと適切なケアへ取り組んできた結果、要支援となった実績もある。理念への取組みは利用者自身にも浸透しており、平均年齢が米寿を超える現在でも、排泄、移動は見守りが主である。老健施設に隣接している事や周辺に民家が少ない事等が影響し、地域との交流は課題でもあるが、今年度は地域にリサイクルへの協力を働きかけるなどの取組みが見られた。職員は開設以来の勤続者が多く、ケアと環境整備の両面から支援している。昼食時、和モダンを演出したリビングには、美味しそうな匂いが立ち込め、自然と利用者が食卓に集う光景からは「住と食」への深い想いが感じられた。そこで暮す利用者、職員は勿論、訪れる人をも和ませるホームである。

【情報提供票より】(平成 21 年 6 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 5 人	非常勤 10 人 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	1 階建ての～	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有() 円	○ 無		
保証金の有無(一時金を含む)	有() 円	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり 1,380 円程度			

(4) 利用者の概要(6 月 10 日現在)

登録人数	16 名	男性	1 名	女性	15 名
要介護1	11 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名				
要支援1	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.2 歳	最低	81 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団親和会共立病院・医療法人恵和会田川慈恵病院・加藤歯科
---------	----------------------------------

重点項目

前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
前回の評価結果について運営推進会議時に報告を行い、職員会議時に協議し、質の向上へ取り組んだ。この過程で、地域交流への働きかけや、リハビリ体操の導入等の成果が見られた。

今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
今回の外部評価に際して、職員各々に資料を回覧し、評価内容をチェックしてもらい、担当者がまとめるなど、全職員がかかわっての取組みがある。

運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
民生委員、役場職員、地域住民、協力医療機関職員、家族を招いて2ヶ月ごとの開催がある。運営推進会議時には、外部評価の結果や利用者の状況、ホーム行事や地域行事の情報提供等がなされ、サービスの質の向上に活かされている。

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
契約時に苦情窓口や苦情対応体制について説明を行っている。実際の相談や苦情は、面会時に直接話されることがほとんどである。また、今年度より家族会を開催し、会議の中でも意見や苦情を求めている。意見や苦情については、内容に応じて、その場での回答や、職員会議で検討したあと回答するなどの取組みがある。

日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
法人全体で夏祭りを開催し、地域住民の参加が見られる。また、今年度の新しい試みとして、食器類のリサイクルへの協力を掲載したホーム新聞を作成し、地域に配布し、有志から寄付があり、交流のきっかけとなった。今年度からは、地域公民館活動や行事への参加も計画している。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	基本理念の中に「地域の人々との交流を図る」を明 記している。理念は開設時と地域密着型サービスが 開始された3年前にも見直しを行い、新たな理念を作 り上げた。新しい理念にも地域との関係についてう たっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に掲示し、さりげなく目に付く工夫がある。 カンファレンス時に唱和し、日常のケアを通じて、利用 者と職員とがよりよい関係で過ごせるように尽力し、 理念の実践に努めている。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	法人全体で夏祭りを開催し、地域住民の参加が見 られる。また、今年度の新しい試みとして、食器類のリ サイクルへの協力を掲載したホーム新聞を作成し、地 域に配布しところ、有志から寄付があり、交流のきつ かけとなった。今年度からは、地域公民館活動や行 事への参加も計画している。	○	食器類のリサイクル等が、地域との交流のきっか けとなるなど、貴事業所の働きかけが、徐々に成果 となって現れていると思います。これを、きっかけとし て、益々の地域交流の発展を期待します。
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、運営推進会議時に報告 を行い、職員会議時に協議し、質の向上へ取り組ん だ。この過程で、地域交流への働きかけや、リハビリ 体操の導入等の成果が見られた。今回の外部評価に 際しても職員各々に資料を回覧し、評価内容をチェッ クしてもらい、担当者がまとめるなど、全職員がかか わっての取り組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者を招いて2ヶ月毎に開催している。運営推進会議時には外部評価の結果や利用者の状況、ホーム行事や、地域行事の情報提供等がなされ、サービスの質の向上に活かされている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政職員の運営推進会議への参加が継続的になされている。今年度からは、町民にも配布出来る様に町役場にホーム新聞を置いている。また、ボランティアの紹介を受けるなど、連携をとりながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者と家族向けに、制度の概要をまとめたパンフレットを玄関に準備している。職員に対しては、外部研修の報告会や資料を基にした勉強会を通じて学ぶ機会を持ち、制度の理解を深め、適切に対応できるように取り組んでいる。	○	今後、家庭環境も含めて高齢者をとりまく状況は変化し、権利や財産を守る制度の必要性は益々高まるものと予想されます。利用者及び家族、地域住民や職員にとっても有益な制度周知の機会として運営推進会議や家族会等を活用される取組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時の声かけや金銭管理簿等を提示しての報告、ホーム新聞と利用者ごとの介護記録を送付して本人の心身状況や行事等の報告を行っている。また、随時の電話報告など、状況に応じた働きかけが行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口や苦情対応体制について説明を行っている。実際の相談や苦情は、面会時に直接話されることがほとんどである。また、今年度より家族会を開催し、会議の中でも意見や苦情を求めている。意見や苦情については、内容に応じて、その場での回答や、職員会議で検討したあと回答するなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来の職員が多数勤続している。法人内の異動は必要に応じて適切な引継ぎ期間を確保して実施されている。ユニット間は常時往来があり、職員、利用者ともに顔見知りの関係が保たれている。新しい職員が入職した際は、先輩職員がフォローしながら利用者とのコミュニケーションがとりやすいように適切に支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員は法人で採用され、各部署への配属となる。職員採用の目安として、ヘルパー2級資格を原則としているが、年齢や性別、経験の有無には制限を設けていない。理念への共感と、夜勤も含めて、体力的、時間的にも可能かどうか等を重視している。またホームの雰囲気や食事等にも、職員の「住」「食」への想いやこだわりが感じられ良い方向に作用している		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人格の尊重や高齢者の尊厳、プライバシーの保護、高齢者虐待防止については、内部研修を開催し理解と実践に努めている。	○	現在取り組んでおられる研修テーマを更に掘り下げて人権意識をより高めると同時に、高齢者に留まらない様々な視点や対象を取り入れた勉強会への参加、ビデオ学習や講師招聘等、事業所や法人全体でも学習の機会を確保される取組みを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、毎月のホーム勉強会を開催している。外部研修について掲示や回覧、会議での情報提供を行い、職員の参加を募ったり、管理者が適切に割り振るなど、外部研修への参加の機会を確保している。研修受講後は受講報告を行い、新しい知識や情報を共有する取組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小竹町のグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換等を行っている。また地域包括支援センター主催で小竹町・宮若町徘徊ネットワークが開設され、地域の事業所と連携をとりながら、サービスの質の向上を目指す取組みを計画している。	○	現在、地域の事業所間のネットワークが構築されつつあります。交流の中で、現場職員が経験を通じて得た実感や情報等が交わされる機会を確保し、モチベーションや新たな発見や気づきを生み、より良いサービスの質の向上へとつながる取組みとなる事を期待します。


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の管理者による自宅訪問や面談、ホーム見学や日中のみの体験利用などを通じて、安心して生活に馴染めるように柔軟に対応している。入居後は他の利用者との関係を見守りながら、特に、利用者の不安や心配事については、寄り添いながら徐々に軽減されるように努め、安心して暮らせるように支援している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の会話の中で、家事の方法や昔の風習、人生経験を通じての体験談等から様々なことを、学ぶ姿勢がある。また、互いにねぎらいの言葉をかけ合う等、理念の言葉どおりに、利用者職員が支えあう関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のかかわりを通して、何気ない一言や表情など利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、センター方式に記録している。利用者ごとの担当職員が中心となり、カンファレンス時に職員全員で意見を出し合い、本人の視点に立って検討している。また、利用者の言葉、行動や表情などの観察、分析などの記録を通して把握した情報の共有化に努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族面会時等に希望や意向を確認し、日々のかかわりの中から利用者の希望の把握に努めている。これらの情報をもとに、カンファレンスを開催し、主治医の意見や職員全員の気づき等を協議し、介護計画へ反映させるなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	3か月毎の見直しとモニタリング及び評価を行い、カンファレンスを開催し、介護計画を作成している。状態が変 化した場合も同様の過程を経て、現状に即した介護 計画を作成している。	○	現在、申し送り時に口頭による利用者の情報交換や 支援内容の確認がなされています。この機会の確保 が全利用者について均等かつ定期的(1ヶ月に1回以 上)になされる事と、情報や確認された内容について 記録されることは、利用者・家族及び貴事業所にとっ て貴重かつ有益な資料となると思われます。今後の 取組みを期待します。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	個別の外出支援や家族が同行できない場合の通院 介助、入院にまつわる支援、誕生日の外出等、利用 者・家族の要望に沿って柔軟に支援している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ 医と事業所の関係を築きなが ら、適切な医療を受けられる ように支援している	契約時に医療等について説明し、利用者・家族が 入居後の主治医を選択している。原則的にかかり つけ医の受診は家族が対応し、毎月2回の往診 と緊急時は協力医が対応している。歯科につ いても定期往診が実施され、皮膚科等も協 力医療機関の中にある等、適切な支援がな されている。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方 について、できるだけ早い段階から 本人や家族等ならびにかかりつけ 医等と繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	契約時に重度化に関する指針の説明を行 ない、家族の意向の把握と了承を得て いる。現段階では看取り支援の体制 はないが、センター方式を採用し日 々のかわりの中から本人の意向をく みとり記録している。身体状況の変 化の際は主治医や家族、職員全体で 方針や情報の周知と共有を図り適切 に支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する対応等については、勉強会やその 都度の指導等の取組みがある。職員も個人情報保護 についての勉強会等で意識向上を図り、個人記録等 も事務所での一括管理や漏洩の防止に努めるなどの 取組みがある。また、利用者から自身で部屋の施錠 ができるようにしてほしいとの依頼もあり、簡易錠にて プライバシーが確保出来る様に支援している。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての基本的な流れはあるものの、利用者一 人ひとりの状態に配慮しながら、決して無理強いせ ず、食事や入浴の声かけ等を行うなど、その時々で 利用者の意思とペースを尊重した対応がある。また、カ ンファレンス時に、支援のペースについても協議し、でき るだけ利用者本位の生活が行えるように、工夫してい る。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	法人の栄養士が作成したメニューとレシピで調理してい る。ホームでは、利用者の好みや意見等を聞きなが ら、一品追加して提供している。配膳や後片付け等、 可能な限り利用者と職員が協力して行っている。食事 の内容は、豊富な食材やしっかりした味付け、盛りつ けに趣向が凝らされており、職員の「食」へのこだわり や想いが伺えた		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	日曜日以外は毎日入浴が可能であり、本人の希望 に沿って柔軟に対応している。実際は週3回位の頻 度を希望する利用者が多く、午後から夕方迄の入浴 で支援している。お風呂が苦手な方にもタイミングを 見ての声かけ、清拭、足浴を行なう等、工夫しながら 清潔保持の機会を確保している		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	役割として固定せずに、洗濯物干しやたたみ、食事 の準備など、本人のできる範囲でお願いしている。日 中は習字、カルタ、木製パズル等を来訪するボラン ティアと楽しんだり、隣接するデイケアにカラオケに赴 くなど、ホームの内外で楽しみや気晴らしができる様 に支援している。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	買物やドライブ、花見などの行楽、施設や名所の見 学等を行っている。また、理美容室や温泉等、家族と 協力した個別支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠している。職員は鍵をかけることの弊害 について理解しており、利用者の様子を観察ながら 声かけや見守りを行っている。外出傾向があれば、散 歩を介護計画書に位置付けて支援するなど、利用者 の自由な暮らしと安全を支える取組みがある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	隣接する老健の防火管理者を招いて、年に2回避難 訓練を実施している。同法人の老健、通所サービスは 隣接しており、非常災害時の役割・指揮系統を明確に し、対処出来る様に準備している。	○	火災、水害、地震等の災害時には、その規模が大 きければ大きいほど地域連携の必要性が高まるも のと思われます。地域との連携体制も含めて、法人 全体での非常災害時対策への取組みを期待しま す。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養士が作成したメニューを調理し食事提供をしてい る。加えて、一品をホームで調理し、利用者の好みや食 習慣にも対応できるように支援している。きざみへの 対応は勿論、おかゆ専用の炊飯器で炊くなど、形態 が変わっても美味しく食べられる様に工夫している。 食事摂取量は毎回記録し、水分摂取については必要 に応じて観察や水分補給を促すなどの支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	建物自体は開き戸や高い天井でほど良く採光され た和風のたたずまいである。加えてアンティークな家具に 利用者から寄贈された帯をかける等、統一感のある 和の演出がなされ、落ち着いた「住」への想いが感じ られる空間となっている。また、車イスや歩行器でも十 分往来できるスペースが確保されており、安全面での配 慮も伺えた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	引き出し付ヘッド、洗面所、収納庫が設置してある。 利用者と家族が相談しながら、丁度品や身の回りの 物を持参し、快適に過ごせるように工夫している。ちな みに収納庫はポータブルトイレが収納できる作りとなっ ており、部屋の雰囲気を損ねない機能性と本人の尊厳 を守る工夫が見られた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号